

FREE <sup>JMUV</sup> vol.41  
Dec. 2019

SPECIAL FRONT INTERVIEW  
**FANTASTICS**  
from EXILE TRIBE

SPECIAL INTERVIEW & LIVE REPORT  
**DOBERMAN INFINITY**

SPECIAL INTERVIEW  
『午前0時、キスしに来てよ』  
片寄涼太×橋本環奈  
(GENERATIONS from EXILE TRIBE)



JAPAN MOVE UP WEST



2019年、JAPAN MOVE UP WESTは、  
エンターテインメントの力で、岡山県を始め中四国エリアにさらなるムーヴメントを起こすため、  
FREE PAPER、EVENT、WEB等、従来のメディアを多角的に活用し、  
まち、人、お店などを“つなげる”メディアとして、皆様にサービスを提案していきます。



JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2019年12月11日現在)



株式会社 祥 株式会社DMM.com

special partner コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟 - その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社 HEADLINE WEST) TEL:086-250-8089



FANTASTICS from EXILE TRIBEが4th Single「Time Camera」をリリースした。

ポップでキャッチーなタイトルトラックは、「過去」「現在」「未来」、そして「夢」や「希望」を綴った大切な曲。

2020年はLDH PERFECT YEAR。初めてのツアーを経て大きく成長した彼らは、さらにパワーアップしたFANTASTICSのエンターテインメントを見せてくれる



# FANTASTICS Entertainment

―――初のホールツアー『FANTASTIC NINE』は大成功のうちに幕を下ろしました。ツアーを終えてみて、今どんなことを感じていますか？

**中島颯太(以下、中島):**ライブと演劇が融合したライブだったので、僕たちも観に来てくださる方からどんな反応が返ってくるか不安がありましたし、初日はお客さんもどういう反応をしたらいいかわからない状態だった印象がありました。誰が喋っているか聞こえないくらいのお客さんの歓声をいただいて、最初は不安もありましたが、そういった部分も含めて日々学びながら自分たちが伝えたい想いを全て伝えられたライブになりました。毎公演すごく良い思い出になりました。

**瀬口黎弥(以下、瀬口):**それぞれの公演で学ぶことがたくさんあって、毎公演成長できたなと感じました。同じことをしないライブだったので、アドリブがあったりもして。1度来ていただいた方も、2度観ていただいた方も楽しんでいただけたのではないかと思います。2度観てくれた方は、1回目とは全然内容が違うということを感じていただけていたのではないかなと思うので、FANTASTICSにしかできないライブができたかな、と。横浜でのファイナル公演は、たくさん

の方が観に来てくださることもあって、より一層メンバー同気合いを入れて挑みました。とてもやりがいのあるライブでした。

―――1回目と2回目、内容が違うというのはどう違ったのでしょうか？

**瀬口:**全国各地でライブをさせていただいたことが、演劇のパートでアドリブの内容に反映されていたりするので、それぞれのエリアのことも生かしたライブになっていたと思うんです。

―――確かに、1回観ると他の会場がどうだったのか気になってしまふような内容でした。堀さんはどんな感想を持たれていますか？

**堀夏喜(以下、堀):**今まではフェスやイベント、先輩方のライブなどに出演させていただいていたので、初の単独ツアーで、自分たちを応援してくださっている方しかいない会場でライブをすることが感慨深かったです。特に初日は、自分たちを応援してくださっている方ばかりなんだと思うとすごくパワーが湧いてきましたし、単独ツアーをやるということはそういうことなんだと改めて感じました。

―――ホームですから、より楽しめそうですね。八木さんはいかがでしたか？

**八木勇征(以下、八木):**SOUND DRAMAということで、僕は“SOUND”ライブパートについて。僕たちボーカルは連続でライブの曲数を歌うことも、1時間ドラマパートをやってからサウンドパートで歌うということももちろん初めてでした。演劇の発声と歌う時の発声が全然違って、その声の使い分けが最初はすごく難しかったです。リハーサルの時から大樹くん(佐藤)に、演劇の発声方法を教えてもらったり、このツアーを作り上げるための取り組み方も新しいなと感じましたし、自分で声の調節をするバランスも難しかったです。先輩方もやってこられなかった表現方法だったので、このSOUND DRAMAというエンターテインメントは本当にFANTASTICSで作上げたライブでした。

**澤本夏輝(以下、澤本):**初めての試みとして“SOUND”と“DRAMA”に分けてFANTASTICSを表現して、お客さんから良い反応をいただけたのは嬉しかったです。このライブは、お客さんの反応を得てライブがひとつ完成したと思っていますし、僕たちの新しい武



# SOUND DRAMA

器も見つけられたなというのと同時に、こういう魅せ方もあるんだよという提示もできたかなと思いました。自分で自分を演じているんですが、誰かの前で演じることも初めてだったので、めちゃくちゃ緊張しました(笑)

**木村慧人(以下、木村):**ステージに出るとお客さんが温かく迎えてくださって、FANTASTICSといえばSOUND DRAMAという表現を続けていったら本当に武器になるなということを改めて感じました。“SOUND”ライブパートにダンストラックがあり、その中でみんながドラムの代わりとなる小道具を生音で叩いて披露したり、そういう所からも新しいFANTASTICSをこのライブツアーで表現できたなと改めて実感しました。

**———演劇とライブパフォーマンスの2部構成というスタイルは、エンターテインメントを見まわすと長く受け入れられている形ではありますが、LDHでは前例がないので新鮮でした。そもそもこういった形になったのはなぜだったのでしょうか?**

**佐藤大樹(以下、佐藤):**ライブをやることになったけど、シングル

を3枚しかリリースしていなかったんで……現実的に2時間のライブを作り上げるのは不可能だったということがひとつ。それと、以前、FANTASTICSとHIROさんでお話をさせていただいた時に、FANTASTICSは将来的にどうしたいのか?という話になったことがあり、その時、全員がお芝居をやりたい、と。それで、ツアーで演劇にも挑戦してみるのはいかがでしょうか?とご提案をいただきました。内容は僕たちでやりたいことを決めて、鈴木おさむさんが脚本と演出をしてくださって、このSOUND DRAMAというライブが完成しました。

**———鈴木おさむさんにこういうことをやりたいと具体的に伝えたり?**

**世界:**そうですね。僕たちがやりたいことをヒアリングしてくださり、台本を書いていただきました。

**佐藤:**まず最初にやりたかったことというのが、ライブの最後に『Turn Back Time』で会場をピンクの照明で染めたいということと、翔太(中尾)のことを伝えたい、『FANTASTIC NINE』というタイトルについて伝えたいということがまず第一にありました。そこからどう表現するか、一人ひとり他にやりたいことや得意なことがあるかメン

バーにヒアリングしてくださって、今の僕たちの表現の中で何がベストかということを書き上げていただきました。やりたかったことを全部具現化してくださいました。

**———鈴木おさむさんという存在は心強かったと思いますが、これまで前例がないことから、演劇とライブ、SOUND DRAMAって、実際にどうなるのかってイメージは湧きました?**

**佐藤:**最初は全然でした。1時間超えの演技だったので、台本も結構な長さでしたし、稽古で本読みしている時も、どうなるんだろうというの思いながら稽古していました。

**———これは自分たちが作る新しいエンターテインメントだと手応えという確信を感じた瞬間はありましたか?**

**佐藤:**演劇で張った伏線をライブで回収する場面がたくさんあって、それをお客さんが気づいてくれた時の反応を感じた時ですかね。僕たちにしかできないことでもありましたし、やっていないことだったのですごく嬉しかったです。特に、慧人(木村)も言ってくれていたダ

ンストラックでドラムを叩いた時はすごく面白いことが表現できていたなと感じました。

――世界さんはいかがでしょう？

**世界:**演劇というより、台本はあるんですけどフィクションじゃないので。全部僕たちが歩んできた道やファンの皆さんに伝えたかったこと、メンバーに伝えたかったこと、自分自身に伝えたかったことをこのSOUND DRAMAというコンセプトで表現できたと思います。

――演劇パートでも世界さんは、大活躍でした。笑わせてもらいました。

**世界:**今回のお芝居の中ではツッコミ役だったので1対7になるシーンが結構あって、やっていて楽しかったです。コメディ要素が強く、絶対本人だったら言わないであろうセリフもそれぞれ言っていたりするので、メンバー同士が楽しみながらできたツアーだったと思います。ファンの皆さんもそれを観て笑ってくださったので嬉しかったです。サウンドパートの照明だったりクリエイティブな部分もこだわって、パントマイムにも挑戦させていただいて僕自身も表現したかったことを表現できたので1歩踏み出せたライブになったなと感じています。LDHIには色々なグループがあるのですが、FANTASTICSというチームは本当にたくさんの方に応援していただいているグループだなと改めて感じました。僕たち自身も絶対に忘れられないこともあったし、忘れたくないこともデビューさせていただく前からたくさんあったんですけど、ライブを観に来てくださる方には笑顔になってほしいし、喜んで帰ってほしいという想いが強かったです。台本を読んで、稽古をしている時、最初はみんな戸惑いもあったと思うんです。でもやっぱりやっていくと……最初はツアーの形がすごく角張ったものだとしたら、だんだんそれがメンバー同士で削られて綺麗な丸になった気がして、それは普通のお芝居ではできない経験だったと思います。

――単独ですし、SOUND DRAMAですし、リハーサルは一般的なツアーよりも長かった？

**世界:**2ヶ月半ぐらいですかね。

**佐藤:**いつもの倍ですね。

**中島:**リハーサルが芝居の稽古から始まるのは新しかったです。

**世界:**通常はステージセットの図面を見ながら、構成だったりセットリストを作っていきますが、本読みから始まりました。ただ、SOUND DRAMAじゃなかったらどんなライブをやっていたんだろってみんな1回考えたんですけど、答えがパツと出てこなくて。だから成るべくしてこのSOUND DRAMAになったんだろなと思います。

――先ほど、慧人さんが「続けていたら本当に武器になる」とおっしゃってましたが、今後楽曲が増えてきてもライブで演劇はやりたい？

**世界:**そうですね。今回は本人役を演じていますが、多分今回のツアーを観に来ていただいた方は本人ではない役を演じているところも観たくなるんじゃないかなって思うんです。このメンバーはこういう役をやったら……という想像も広がって、短くてもやりたいですね。

――12月4日にリリースされた4th Single『Time Camera』はライブでは1曲目の楽曲でした。このツアーを目指して制作した楽曲？

**佐藤:**ツアーの開催が決まった時に、ツアーの1曲目を作りたいという流れでできた楽曲なんです。実際に楽曲が上がってきたのは演劇パートのリハーサルもほぼ終わってしまっていました。ツアーが始まる1ヶ月前ぐらいかな。

――ボーカルの2人は、CDや音源という意味では、担当部分は大きくなりますが、最初に聴いた時はどんな印象を持ちましたか？

**中島:**すごくキャッチーで僕たちらしい楽曲だなと思ったのが率直な印象で、4枚目のシングルということもあって、爽やかだけど芯のある歌い方をしたいと思いながらレコーディングさせていただきました。歌詞も以前から作詞していただいている、小竹正人さんに書いていただいて、過去・現在・未来という時間軸において、昔辛い過去があっても、今を信じていたら未来が切り開けるような前向きな楽曲





だったので、芯がありながらも爽やか且つ前向きな曲を歌いたい  
なって2人でも話していました。

――演劇の稽古で自分で取り込んだ部分がレコーディングに生  
かされたりもしていますか？

中島:そうですね。演劇の稽古があったからこそ雰囲気や掴めたとい  
うか、このライブで伝えたいことが見えてきた時だったので、僕たち  
自身イメージしても分かりやすかったですし、気持ちが乗せやすかつ  
たです。

――ツアーでは、演劇パートからライブに移るときの最初の曲で  
した。レコーディング時にはそれも意識されたりしましたか？

八木:最初に録り終えたものでは、オープニングの時にお客さんのテ  
ンションをMAXまで持っていけないということで、少し力強さも取  
り入れて盛り上げられるような楽曲にしたいというのもあって、1回完  
成していたけれど、再度レコーディングし直しました。初日の仙台で  
パフォーマンスした『Time Camera』とファイナル公演の『Time  
Camera』では、僕たち自身もブラッシュアップしてアプローチの仕  
方も変わっているので、歌い方もリズムに乗せて歌うというよりは、  
言葉を一つ一つはっきりさせてお客さんの心に届けるという想  
いで歌わせていただきました。

――振付はどうでしょう。リリースよりも先にツアーで披露する  
こともあるので、SOUND DRAMAというツアーにおけるライブパ  
フォーマンスを意識したり？

世界:そこまではないかなあ。この先も歌い続ける曲でもあるので  
1つの楽曲として振付は考えました。この曲では、僕がサビを作って  
1番を堀夏(堀)、2番を慧人(木村)が担当しています。

――夏までは世界さんがリーダーシップをとって振付をされてい  
ましたが、『Dear Destiny』からパフォーマンスの皆さんで振付を作  
られるようなスタイルが定着したというか、移行したというか？

世界:僕が怪我をしていたこともあるんですけど……そうですね。

――そうでしたね。ステージ上で骨折されて……。

世界:あの時怪我をしたことで、『BATTLE OF TOKYO』で外から  
FANTASTICSを見ることができたことは、すごく大きかったです。  
良い意味でJr.EXILEの全員を外から見ることができましたし、  
FANTASTICSの強みや課題も見えました。その部分も、ツアーで公  
演を重ねるごとにクリアして行って、強いチームになっていると感じ  
ます。

――カップリング曲の『Tumbling Dice』についてはいかがで  
しょうか？

木村:最初の『Yeah yeah yeah yeah…Ya ya ya』の部分は気合が  
入ります。踊り出しも気合が入りますし、Dメロ(間奏)もパフォーマー  
だけで踊るんですが、今までやってきたものを世界さんが振付とし  
て詰め込んでくださっています。パフォーマンスの後半部分で  
は、自由に頭を振ったり勢いでの振りがあって、お客さんを巻き込  
んで楽しみながらパフォーマンスしていました。今までにない  
FANTASTICSのパフォーマンスだと思っています。

――どの楽曲も素晴らしいんですけど、今までにないFANTASTICS  
が見られる感じがします。

世界:ちょっとオラついています(笑) 先輩方のような男らしい楽曲を  
いつかFANTASTICSでもやりたいねと話していたので、それが今回  
『Tumbling Dice』という楽曲でT.KuraさんとJAY'EDさんという  
スーパークリエイターのお2人に作っていただけて、初めてみんな  
で聴いた時もヤバイねってテンション上がりましたし、ツアーで初披露  
目できたので、お客さんの反応もすごく良くて嬉しかったです。

――ツアーでファンの皆さんに聴いてもらった曲が、改めてCD  
としてリリースされるって、“新作を引っ提げてツアー”とはまた  
違った良さがありますよね。

世界:そうですね。来年のアリーナツアーがさらに楽しみです。

――2020年のFANTASTICSに期待しています！

「新」

世界

FANTASTIC NINEというツアーで新しい一面を引き出すことが出来たし、グループとしても新しいことにたくさん挑戦させていただいた1年でした。その中で9人の思いや一人ひとりの思いを新鮮な気持ちでファンの皆様に届けることが出来たと思っていますし、**過去を知って今を知ってこれからの新しい未来を作りたいという気持ちを込めて『新』**。個人的にも、ツアーの演劇ではツッコミ役だったり全17公演全曲違う曲でソロを踊らせていただいたりしました。2020年も新規開拓ということでFANTASTICSもどんどん新しいことに挑戦していきたいと思います!

「楽」

佐藤 大樹

2月まではEXILEのドームツアーがあり、4月にFANTASTICSの2枚目のSingle「Flying Fish」、夏に「Dear Destiny」の発売があって、個人的には主演映画、主演舞台をやり、BATTLE OF TOKYOのライブ、FANTASTICSの単独ツアーがありました。さらに映画も1本撮らせていただきましたし、2019年最後にはLDHのカウントダウンライブもあります。本当に**休む間も忘れるくらい毎日が目まぐるしくとても楽しかったので、『楽』**にしました。

「宙」

八木 勇征

デビューする前からたくさんの方にFANTASTICSのボーカルとして迎え入れていただいてから、誰かに歌を届ける、想いを届けるという事を常に意識して活動してきました。デビューしてからは、EXILEさんのドームツアーに帯同させていただき、BATTLE OF TOKYO、初の単独ホールツアーで**たくさんの方の前で歌わせていただく時に想いを込めて届ける事をずっと意識してパフォーマンスしてきました**。これからもFANTASTICSの新しいエンターテインメントで皆さんの予想を良い意味で裏切られるようなパフォーマンスと歌を届けられるように活動していきますので宜しくお願いします。

JAPAN MOVE UP WEST 編集部!

FANTASTICSの皆さん、教えてください!

今年の漢字一文字



九

澤本 夏輝

今年1年を通して**9人の想いをたくさんの方に届けるために**、ライブでパフォーマンスする機会を多くいただけました。特に今年のBATTLE OF TOKYOでは、7月6日が翔太の1年忌ということでより想いが強い日でもありましたが、「FANTASTIC NINE」というテーマを掲げてツアーもできたので、今年1年を表す漢字は「九」です!

成

中島 颯太

今年、中島が**20歳を迎え成人したので(笑)** 大人の「大」か「人」と迷ったんですけど「成」にしました。初の単独ホールツアーも成功出来たましたし、これからも大人として成長していきたいという意味も込めています。

挑

堀 夏喜

今年、新しいことにたくさん挑みました。1つは演劇で、単独ツアーで初めて演技をしたのが1番の挑戦でした。ツアータイトルにもあるSOUND DRAMAという新しい取り組みをしたりと、今年**は挑戦の年だったので『挑』**にしました。

炎

瀬口 黎弥

今年1年は、**炎のように燃えた1年**でしたし、BATTLE OF TOKYOでもすごく熱狂して、闘志が燃えたぎりでした。FANTASTICS初の単独ツアーでは、全国で炎を燃やしたように気合十分で挑みました。引き続き大きな炎になれるように頑張っていきたいと思います!!

「初」

木村 慧人

今年、**BATTLE OF TOKYOも単独ホールツアーも初挑戦**させていただきましたし、単独ツアーでは、初の試みでSOUND DRAMAをやらせていただいたので今年を表す漢字は「初」にしました。



## 4th Single 『Time Camera』 ON SALE!

2018年12月5日に「OVER DRIVE」でデビュー。2019年4月3日にリリースした「Flying Fish」にてスマッシュヒットを記録。そしてシングルとしては初のバラード「Dear Destiny」を2019年8月21日にリリースしたのが記憶に新しいFANTASTICS。アーティストとして実力と知名度が上がってきた彼らが早くも4thシングルの発売を決定!!前作の「運命」をテーマにしたラブ・バラードとは一転し、キャッチーなサウンドと、「夢」や「希望」といった壮大なテーマが込められた、FANTASTICSらしい爽やかなポップチューンだ。思わず拳を高く突き上げたくなる、前のめりなグルーブ感と熱量を感じさせる楽曲で、「Time Camera」とタイトルにある通り、「過去」「現在」「未来」を高らかに歌い上げている。

CD Only [RZCD-86972]¥1,273+tax CD+DVD [RZCD-86971/B]¥1,818+tax 収録内容 [CD] 1.Time Camera 2.Tumbling Dice 3.Tarte Tatin 4.Time Camera (Instrumental) 5.Tumbling Dice (Instrumental) 6.Tarte Tatin (Instrumental) ※二形態共通 [DVD] 1.Time Camera (Music Video) ※CD+DVD [RZCD-86971/B]のみ

1st Album 『FANTASTIC 9』 2020.2.12 Wed release!!

[CD+2Blu-ray]¥8,000(+税) [CD+2DVD]¥7,000(+税) [CD Only]¥3,000(+税) CD収録内容「OVER DRIVE」「Flying Fish」「Dear Destiny」「Time Camera」シングル4曲、新曲「FANTASTIC 9」を含む全17曲を収録予定。

Blu-ray/DVD収録内容 ※二形態共通(CD+2Blu-ray/CD+2DVDのみ) Music Video 1.OVER DRIVE 2.Flying Fish 3.Dear Destiny 4.Time Camera 5.FANTASTIC 9  
ツアー映像&ドキュメント映像 FANTASTICS SOUND DRAMA 2019 FANTASTIC NINE ライブ FANTASTICS SOUND DRAMA 2019 FANTASTIC NINE ツアー密着ドキュメント

FANTASTICS 初のアリーナツアー 『FANTASTICS LIVE TOUR 2020 "FNT"』 開催決定!

JAPAN MOVE UP WEST vol.41

# SPECIAL INTERVIEW



## DOBERMAN INFINITY

結成当初からの夢であるアリーナツアーという大きな夢を叶えたDOBERMAN INFINITY。

11月27日に両A面シングル『We are the one/ずっと』をリリース、さらに来年2020年には全国ホールツアーの開催も決定。

歩みを止めることのないDOBERMAN INFINITY、ファンを仲間・友達と例えるほどの絆を感じられたこのツアーで

5人はツアー終了直後何を感じたのか、、、最新シングルへの想いと共にインタビュー。

――結成当初からの大きな夢、ファンとの“約束”とされていたアリーナツアーは大成で幕を閉じました。ツアーを終えての今の率直な感想は？

**P-CHO:**ここまで5年かかったんですけど、5年かけた甲斐があったというか、やっぱり苦労した分、広がった景色は素晴らしいです。今までのライブももちろんですが、今まで以上にすごく大きなパワーをもらったなと感じています。これからDOBERMAN INFINITY (以下:ドーベル)が突き進んでいくにあたって最強のパワーをファンの皆さんからいただいたので、このエネルギーを持ってまた次のドーベルを見せたいと思います。本当に感謝のステージになりました。

**GS:**本当に応援してくださる皆さんのおかげでここまで来ることができて、噛みしめる間もなく5公演で終わってしまうのはすごく寂しいのが正直な気持ちですね。もっともっとライブをやりたいし、ファンのみんなとあの幸せな空間を共有したいと思っているところなんですけど、まだまだここで終わりじゃないので、このアリーナツアーを次のステップへ活かして新たなステージに行きたいなと。今はやる気に満ち溢れています。

**SWAY:**あつという間でしたね。終わったばかりで、今は何も考えられないんですけど、すごく楽しかったですね。音楽に対する愛がまたアップデートされるといって、やっぱり音楽やライブって楽しいなと思いました。アリーナ規模の楽しさを知ってしまったという良い意味での恐怖もありました。クラブなど小さい規模でみんなと音楽でひとつになることの楽しさももちろんあって、それは比べられないので。でもこのアリーナツアーのライブは、こんなに楽しいんだってという気持ちで今はいっぱいですね。

**KAZUKI:**規模が大きくなって単純にステージから見る景色も変わって感動したんですけど、それよりも僕たちの音楽をたくさんの方が観に、聴きにきてくださっているということが目に見えて分かって、自分たちが作ってきた音楽に共感してくださっている方がたくさんいることがすごく嬉しかったですね。

**KUBO-C:**素直に嬉しいです。アリーナツアーが始まる前は、終わった時に「やったぞ!」っていう気持ちになるんだろうなと思っていたんですけど、いざ終わってみて感じるのは「やったぞ!」というよりもみんなに「ありがとう」という気持ちの方が大きいので、そこはアリーナツアーをする前と変わったところ。こうやって今までずっと言い続けてきた夢を叶えさせてもらったことも、自分たちにとってはすごく大きいので、また次の夢を掲げて突き進みたいなと思っています。

――先日、11月27日には両A面シングル『We are the one/ずっと』をリリースされました。それぞれどんな楽曲になっていますか？

**SWAY:**『We are the one/ずっと』は、アリーナツアーが始まる前に、アリーナツアーが終わっても次から次へと何かアクションを起こしたくて、シングルのリリースがメンバー統一して思ったことでした。その中でどんな曲を作ろうかとなった時に、ドーベルが5周年ということもあったし、アリーナツアーという夢のステージを目前にして、ファンの皆さんへの“感謝”だったりとか、僕たち自身も新たな夢に進まなければいけないということもあったので、自分たちに対してもみんなにも「頑張れ!」って背中を押してあげられる曲が出来上がると僕たちもまた次のステージに向けて進んで、みんなが頑張れるんじゃないかという想いを込めて『We are the one!』という楽曲が完成しました。ライブでも言わせていただいたんですが、『We are the one!』の“one”は自分だけの“one”じゃなくて、ずっと応援してくださっている方からまだドーベルの曲を聴いたことがない方も巻き込んで、一緒に頑張りたいと思ってもらえるような音楽やグループでありたいし、そういうことを僕たちが聴いてくださる方たちに音楽を通して伝えることによって「今日も頑張ろう!」と思ってもらえるような曲を作らせていただきました。

**KAZUKI:**「ずっと」は、色んな人が胸の内に秘めているような言葉にするのが恥ずかしいことや、本当はこう思っているんだよということ、僕たちが声を大にして歌って伝えてあげるのがドーベルの役割だと思っています。今回「愛」をテーマに歌詞を書かせていただいたので、純粋な男心を歌った楽曲になりました。素直に気持ちを伝えられない方がいたら、「ずっと」を大切な人に届けてもらえたらと思います。

――『ずっと』は、ラップ部分を歌っている皆さんそれぞれが作詞されたとか。

**GS:**そうですね。この『ずっと』という楽曲は、KAZUKIの「最後の恋が最初の愛に変わって」というパンチラインから、それぞれ歌詞がスタートしはじめたんですけど、男性も女性も色々な人とお付き合いをして、人生に一度この人!という人に出会う瞬間って皆さんあると思うんですよね。メンバー自身もその瞬間を想像して、その物語の主人公になって歌詞を書いたので、ある程度リアルな恋愛観に近い作詞の内容になったんじゃないかなと思います。

**SWAY:**リアルな体験というか、実際に感じたことがある感情を歌詞にしたという感じですね。

――アリーナツアー直後の心境、最新シングルについて伺いましたが、ここまで個人的に叶った夢もありましたか？

**GS:**僕はやっぱりこのアリーナツアーを経て、親孝行ができましたね。関西って、大阪城ホールでライブをやったらこれ以上の場所はないという。京セラドームもありますけど、アーティストの登壇門としては、東の武道館のような由緒正しい大阪城ホールという場所なので、大阪城ホールで観てもらえたというのはすごく親孝行できたなと思います。

**P-CHO:**小さい頃から、色々なアーティストさんが大きなステージで歌っている姿をみていて、それを自分に置き換えてイメージするのが好きでした。今、そのイメージしていたステージに自分自身が立っていると思うと、すごいことが起きているなと不思議な気持ちになったし、幼き頃のイメージが現実になりました。

**SWAY:**音楽を仕事にできているということはやっぱりすごく大きいですね。まだ、そういう音楽というジャンルの夢としては暮らしのクラスがあると思うんですけど、バイトを掛け持ちしながらやっていた音楽だったので、こうやって音楽活動一本で毎日生きているというのは1つ夢が叶ったことですね。

**KUBO-C:**ライブ中に個人の夢はまだないって言ったんですけど、死ぬまでにやりたいことリストはあるんですよ。その中の一つが叶いました。そのリストは自分の中で結構たくさんあるんですけど、アリーナツアーという項目が“済”になりました。

**KAZUKI:**…(悩)

**GS:**音楽部屋を作れたことは？

**KAZUKI:**音楽以外のこと言おうと思ったんですけど、無いなと思って、、、

**SWAY:**ないかーい(笑)

**KUBO-C:**言わんかったらよかったやん(笑)

**KAZUKI:**なんだろうなあ。やっぱり結局夢は音楽のことになって、自分の作った曲をリリースさせていただけのことですね。時間は無駄じゃなかったぞって昔の自分に伝えたいです。

――アリーナツアーから歩みを止めることなく、まだまだ夢に向かって突き進むDOBERMAN INFINITYの皆さん。今後の活躍や来年のホールツアーも楽しみにしています!

NOW ON SALE!! 『We are the one/ずっと』

●初回生産限定盤 (CD+DVD):XNLD-10043/B ¥1,700 (tax in)

●通常盤 (CD):XNLD-10044 ¥1,000 (tax in)

[DVD 収録曲] M1.『We are the one』MV, M2.『ずっと』MV 全2曲収録

[CD 収録曲] M1.『We are the one』, M2.『ずっと』 M3.『まだ足りねえ』購入者特典:オリジナルポスター

全国ツアー開催決定!!

DOBERMAN INFINITY  
LIVE TOUR 2020

We are the one

ツアー詳細はLDH mobieをチェック!  
[https://m.ldh-m.jp/news/detail?news\\_id=21117](https://m.ldh-m.jp/news/detail?news_id=21117)

- 3月7日(土) 新潟 新潟テルサ
- 3月17日(火) 愛知 愛知県芸術劇場 大ホール
- 5月8日(金) 東京 東京国際フォーラム ホールA
- 5月17日(日) 奈良 なら100年会館大ホール
- 5月23日(土) 広島 ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ 大ホール
- 6月27日(土) 岐阜 長良川国際会議場
- 7月17日(金) 神奈川 神奈川県民ホール 大ホール
- 9月11日(金) 福岡 福岡サンパレス
- 10月18日(日) 大阪 大阪国際会議場グランキューブ大阪メインホール
- 11月20日(金) 北海道 カナモトホール(札幌市民ホール)

DOBERMAN INFINITY LIVE TOUR 2019  
5IVE ~必ず会おうこの約束の場所で~

# LIVE REPORT



## SET LIST

- |                      |                      |                         |
|----------------------|----------------------|-------------------------|
| 01. 5IVE             | 12. NEO STREET       | 23. D.Island feat.m-flo |
| 02. Gatti            | 13. MANZANA          | 24. SUPER BALL          |
| 03. スリルライブ           | 14. ON FIRE          | 25. DO PARTY            |
| 04. Treasure         | 15. BOW WOW WOW      | 26. YOU & I             |
| 05. 99               | 16. WOW              | 27. いくつか                |
| 06. Looking' for     | 17. UNITY            |                         |
| 07. 二人だけの地図          | 18. ずっと              | [Encore]                |
| 08. MONSTERS         | 19. あの日のキミと今の僕に      | 28. SAY YEAH!!          |
| 09. ICE BOX          | 20. Your Santa Claus | 29. We are the one      |
| 10. WILD STYLE       | 21. GA GA SUMMER     | 30. We can be the light |
| 11. GET UP AND DANCE | 22. JUMP AROUND∞     |                         |



DOBERMAN INFINITYのアリーナツアー「DOBERMAN INFINITY LIVE TOUR 2019 5IVE ~必ず会おうこの約束の場所で~」が、11月27日(水)に大阪城ホールにて千秋楽を迎えた。合わせて、同日にシングル『We are the one/ずっと』をリリースしたこと、2020年に全国ツアーの開催が決定したことも明かされた。

初のベストアルバム『5IVE』(6月26日発売)を掲げて、全5公演、約3万8000人を動員した今回のツアー。アルバム『5IVE』のタイトルは、「5人で歩んできた5年間」との意味で、今回のアリーナ公演の実現は、結成当初からメンバーがファンと公約してきた夢だ。大阪にルーツを持つ彼らにとって、大阪城ホールでの最終公演は特別な意味合いを持つ。

5頭のドーベルマンが高くそびえる柵を飛び越えていくアニメーションが流れた後、ステージにメンバーが登場すると、会場は大歓声に包まれる。5人の絆を力強く表現したアルバム表題曲『5IVE』でスタートしたライブは、そのまま『Gatti』『スリルライブ』などのアッパーチューンへとなだれ込み、これでもかというほどに最新型のDOBERMAN INFINITYを見せていく。P-CHOが、「俺たちがついにこの夢の舞台、アリーナのステージにたどり着いたぜ! ありったけの力を全部使って暴れる準備はできているか?」と煽り、『Treasure』『99』『Looking' for』と連投すると、早くも会場全体でタオルを回すほどの大盛り上がり。『二人だけの地図』や『Never Change』などのエモーショナルな楽曲では、5年間の歩みを噛みしめるように、この日を迎えたことへの喜びを熱く伝えた。

スペシャルゲストとして、DOBERMAN INFINITYにとっての盟友・EXILE MAKIDAI(PKCZ®)が登場すると、「CLUB D.I.」のコーナーへ。『MONSTERS』『ICE BOX』『WILD STYLE』『GET UP AND DANCE』『NEO STREET』など、フロア映えるダンスチューンがノンストップでミックスされ、大阪城ホールはその日限りのクラブへと変貌する。そのままの勢いで、SWAYがソロ曲『MANZANA』『ON FIRE』でフロアを揺らすと、オリジナルメンバーのGS、P-CHO、KUBO-CとSWAYのD.I. MC'sの4人はハードコアな『BOW WOW WOW』で貴禄を見せつける。一方、ボーカリストのKAZUKIは、圧倒的な歌唱力で『WOW』を歌い上げ、会場をムーディーに染め上げた。コーナーのラストでは、全員で『UNITY』を披露、盛大なコール&レスポンスを巻き起こした。



KAZUKIの「大切なひとを思い浮かべながら聴いて下さい」というMCのあとは、バラードコーナーへ。愛する人への募る想いをしたためた発売前から大人気となっている新曲『ずっと』、DOBERMAN INFINITY流の一早いクリスマスソング『あの日のキミと今の僕に』で、会場をハートフルな雰囲気包むと、温かな拍手が巻き起こった。サンタクロースに扮したメンバーのプレゼントコーナーでは、ファンクラブの会員をステージに上げる一幕も。

今やDOBERMAN INFINITYのライブで定番となった『GA GA SUMMER』の合唱からは、ラストパートに向けて一気に盛り上げていく。『JUMP AROUND∞』『D.Island』『SUPER BALL』『DO PARTY』と、DOBERMAN INFINITYが得意とするパーティーチューンの連投で、大阪城ホールは熱狂に包まれた。そして、今や代表曲の一つである『YOU & I』と、この日のライブを夢見た曲『いくつか』で、本編は終了。

熱烈なアンコールでステージに現れたメンバーは、ハイテンションな『SAY YEAH!!』で再びファンたちと盛り上がる。その後のMCで、P-CHOは「みんなと一緒にアリーナツアーという約束を果たせたから、もう一つ約束を。ずっと一緒に歩いていく友達でいてくれますか?」と語りかけ、GSは「帰ってきましたよ、大阪。このステージに立つのは、EXILEの第一章のライブ以来です。ようやく、DOBERMAN INFINITYとして立つことができました。みなさんが、僕たちをこのステージに連れてきてくれました」と男泣き。KAZUKIは「あつという間の5公演でした。この景色を見たら、クセになってしまう。もう一度、アリーナツアーをやるという夢ができました」と決意を新たに、KUBO-Cはいつものように冗談を交えつつ「5年かかったけれど、諦めないで続けて、ようやく夢が叶いました。もし今夢が無い人も見つからないとか焦る必要なんかなくて、きっとバツリ出会う時が来ると思うのでその時に一気に夢に向かって頑張ってください!」とファンたちにエールを送った。最後にSWAYが「一つ夢を叶えて、今日からまたスタートだと思います」とのメッセージを伝えた後は、2020年に開催されるLDHの祭典『LDH PERFECT YEAR』にて、全国ツアーを行うことを発表。そして、DOBERMAN INFINITYのアティテュードを歌い上げる『We are the one』と『We can be the light』の2曲を披露し、グループ初のアリーナ公演は幕を閉じた。

# 片寄涼太

(GENERATIONS from EXILE TRIBE)

SPECIAL INTERVIEW  
『午前0時、キスしに来てよ』

# 橋本環奈

スーパースターと一般JKのヒミツの恋を描き、女性を中心に絶大な支持を得るみきもと凜による同名コミック(『別冊フレンド』にて連載中)を超豪華タッグで実写化。国民的スーパースター綾瀬楓(あやせ かえで)役にはGENERATIONS from EXILE TRIBEのボーカルにして俳優としても活躍する片寄涼太。楓に恋をするごく普通的女子高生・日奈々(ひなな)役には話題の主演作が続く人気女優・橋本環奈。気さくなスターの2人が、撮影秘話からウワサの胸キュンシーンまでを語る!

## 〈片寄涼太と橋本環奈の共通点は?〉

——国民的スーパースターとごく普通的女子高生、絶対にバレてはいけない2人の恋は“胸キュン映画”史上最高のドキドキ度!そんな胸キュンシーン満載のラブストーリーを初共演で演じた片寄涼太と橋本環奈。

**片寄涼太(以下:片寄):**橋本さんとはずっと、お互いすれ違いで全然お会いできず、結局、撮影当日が“初めまして”だったんですね。僕は、橋本さん本当に現場に来るのかなあと思っていました。それをお会いした時に言ったら“いや、来ますよ”と(笑)

**橋本環奈(以下:橋本):**当然、来ますよ(笑) 初日は撮影シーンも少なくてもあまりたくさんお話はできなかったんですけど、わりとすぐに打ち解けましたよね。

**片寄:**僕はよく、差し入れなどの参考になるかなと、初めてお会いする方に好きな食べ物は何かお聞きすることが多いです。橋本さんにも聞いたらすき焼きだとおっしゃったんですけど、実はその前日、僕は現場にすき焼き弁当を差し入れしていたので“それ、前日に差し入れしたんですよ、残念でした!”と(笑) 初日からそういう感じでした。お互い、そんなに人見知りするタイプじゃないので…しなないですよ?

**橋本:**しませんね(笑) さらに2日目の遊園地デートの撮影で、すっかり打ち解け合いました。ジェットコースターやメリーゴーラウンド、空中ブランコとか、ずっと一緒に乗り物に乗っていて、楽しかったです。

**片寄:**1つだけ、橋本さんがすごく苦手な乗り物があって。大きな船が前後に揺れる絶叫マシン。他のものは全然、得意なのにあれだけダメだったんですね。“もう無理!降りてください!”と言っている橋本さんの姿に、僕はつい笑ってしまっ。そのシーンもちゃんと使われているんですが、あの笑いは僕の素の笑いです(笑)

**橋本:**あの揺れ方が苦手だったんです。撮影前に“今日はイヤというほど乗りますよ”とスタッフさんから言われて、でもジェットコースターなら何度乗っても楽しいよね、なんて話していたんですけど…あれだけはダメでした。“もう1回いきま〜す!”と言われたときは地獄かと思いました(笑) 2~3回くらい乗っただけでOK出たので、まだよかったんですけど。でもあの日は本当に楽しい撮影でした。基本的に、ドローンを使ったりして遠くから撮影していたので、乗っている間は2人しかその場にいなかったんですけど、実はお互いにAB型だと分かって“AB型あるある”で盛り上がったりして楽しかったですよね。

**片寄:**盛り上がりましたね。これを明かすと、自分のことが知られてしまうので恥ずかしいんですけど(笑) AB型は基本的にAB型である自分が好き、とか。あと、あまり照れたりしないとか。

**橋本:**分かる分かる(笑) あと、変わっていると思われがちだけど意外に協調性がある。

**片寄:**そう! AB型という大抵、変人でしょと言われてはじかれがちなんです。でも実は変わっている自分も嫌いじゃない…みたいな話で盛り上がっていました(笑)

**橋本:**お会いする前は、片寄さんって、もうちょっとクールなイメージというか、こんなにお話してくださる方だとは思わなかった。素の片寄さんは“関西人み”が強かったです(笑)

**片寄:**血はそっちなので(笑)

## 〈「0キス」ならではの胸キュンシーン〉

——AB型が関係あるのかなのか、数々の胸キュンシーンを演じた2人だが「あまりテレはなかった」と振り返る。そんな印象的なシーンの1つが、楓が日奈々の鼻にキス…ではなく、鼻をかじる場面。実は本番まで、鼻をかじることは橋本に内緒だったという。

**橋本:**台本には“鼻にキス”と書いてあって、リハーサルまで鼻にキスすることになっていたので…本番でかじられました(笑)

**片寄:**もともと原作では“鼻かじキス”なんですよ。

**橋本:**私も原作では“鼻かじキス”のシーンだと知っていましたが、台本には普通に鼻にキスをすると書いてあったので、実写ではやらないのかなと思っていたんです。それが本番でいきなり“鼻かじ”だったので…ん?かじった??って(笑)

**片寄:**さすがに橋本さんも驚いていましたね。でも、そのリアルな表情が、すごくいいんです。

**橋本:**お芝居としても日奈々が驚く場面だったので、驚いている演技と素の動揺が相まって、映像を見てすごくいいシーンになっているなと思いました。片寄さんも、いい感じに鼻をかじっていて、漫画のシーンさながらでしたよね。

**片寄:**漫画はすごくきれいに描かれているし、漫画だから描けるものもあるから、実写にするとどうなるかなと思っていたんですが、すごくすてきな印象的なシーンになっていたの、挑戦させていただいてありがたかったです。

**橋本:**人生で鼻をかじられたことなんてありませんからね。初“鼻かじり”です。そして今後もないと思います(笑)

**片寄:**僕も人の鼻をかじることは、この先ないと思います(笑)

## ——「0キス」ならではの、かつてない胸キュンシーンとなっている“鼻かじキス”。

**橋本:**あれはまさに本作でしか見られないシーンですよ。

**片寄:**予告編では“鼻かじキス”の瞬間しか映っていないけど、僕はここにいくまでの流れも見たいんです。

**橋本:**確かに! 本作には胸キュンシーンがちりばめられているんですけど、そこまでの流れやその後とか、胸キュンシーンと前後のストーリーが繋がっているの、その描き方に注目してほしいです。あと私、けっこう出会いのシーンも好きです。綾瀬さんの“おしり星人”が発覚する、衝撃的な出会い(笑) ここは原作でもとても有名で、原作ファンの方も好きなシーンだと思います。実写でも、しっかり描かれているので楽しんでほしいです。

**片寄:**マスク越しのキスシーンも「0キス」ならではの、ですね。まさに、芸能人という設定だからこそそのシーン。芸能人が外でキスをするとか、相当なことですから。一歩間違えばこうやってマスコミに…(笑) でもそれをマスク越しでも、するわけですから。

**橋本:**あのシーンは少し遠くから撮っていて、向こうのほうに人が歩いていたりして、すごくリアリティーがありました。

**片寄:**映画を見る方にとってはドキドキする胸キュンシーンだと思いますけど、こっち側からするとドキドキどころかヒヤヒヤしてしかたがない(笑)



# 片寄涼太

(GENERATIONS from EXILE TRIBE)

SPECIAL INTERVIEW  
『午前0時、キスしに来てよ』

# 橋本環奈

スーパースターと一般JKのヒミツの恋を描き、女性を中心に絶大な支持を得るみきもと凜による同名コミック(『別冊フレンド』にて連載中)を超豪華タッグで実写化。国民的スーパースター綾瀬楓(あやせ かえで)役にはGENERATIONS from EXILE TRIBEのボーカルにして俳優としても活躍する片寄涼太。楓に恋をするごく普通的女子高生・日奈々(ひなな)役には話題の主演作が続く人気女優・橋本環奈。気さくなスターの2人が、撮影秘話からウワサの胸キュンシーンまでを語る!

## 〈片寄涼太と橋本環奈の共通点は?〉

——国民的スーパースターとごく普通的女子高生、絶対にバレてはいけない2人の恋は“胸キュン映画”史上最高のドキドキ度!そんな胸キュンシーン満載のラブストーリーを初共演で演じた片寄涼太と橋本環奈。

**片寄涼太(以下:片寄):**橋本さんとはずっと、お互いすれ違いで全然お会いできず、結局、撮影当日が“初めまして”だったんですね。僕は、橋本さん本当に現場に来るのかなあと思っていました。それをお会いした時に言った“いや、来ますよ”と(笑)

**橋本環奈(以下:橋本):**当然、来ますよ(笑) 初日は撮影シーンも少なくてもあまりたくさんお話はできなかったんですけど、わりとすぐに打ち解けたよな。

**片寄:**僕はよく、差し入れなどの参考になるかなと、初めてお会いする方に好きな食べ物は何かお聞きすることが多いです。橋本さんにも聞いたらすき焼きだとおっしゃったんですけど、実はその前日、僕は現場にすき焼き弁当を差し入れていたので“それ、前日に差し入れたんですよ、残念でした!”と(笑) 初日からそういう感じでした。お互い、そんなに人見知りするタイプじゃないので…しなないですよ?

**橋本:**しませんね(笑) さらに2日目の遊園地デートの撮影で、すっかり打ち解け合いました。ジェットコースターやメリーゴーラウンド、空中ブランコとか、ずっと一緒に乗り物に乗っていて、楽しかったです。

**片寄:**1つだけ、橋本さんがすごく苦手な乗り物があって。大きな船が前後に揺れる絶叫マシン。他のものは全然、得意なのにあれだけダメだったんですよ。“もう無理!降りてください!”と言っている橋本さんの姿に、僕はつい笑ってしまっ。そのシーンもちゃんと使われているんですが、あの笑いは僕の素の笑いです(笑)

**橋本:**あの揺れ方が苦手だったんです。撮影前に“今日はイヤというほど乗りますよ”とスタッフさんから言われて、でもジェットコースターなら何度乗っても楽しいよね、なんて話していたんですけど…あれだけはダメでした。“もう1回いきま〜す!”と言われたときは地獄かと思いました(笑) 2~3回くらい乗っただけでOK出たので、まだよかったですけど。でもあの日は本当に楽しい撮影でした。基本的に、ドローンを使ったりして遠くから撮影していたので、乗っている間は2人しかその場にいなかったんですけど、実はお互いにAB型だと分かって“AB型あるある”で盛り上がったって楽しかったですよな。

**片寄:**盛り上がりましたね。これを明かすと、自分のことが知られてしまうので恥ずかしいんですけど(笑) AB型は基本的にAB型である自分が好き、とか。あと、あまり照れたりしないとか。

**橋本:**分かる分かる(笑) あと、変わっていると思われがちだけど意外に協調性がある。

**片寄:**そう! AB型という大抵、変人でしょと言われてはじかれがちなんです。でも実は変わっている自分も嫌いじゃない…みたいな話で盛り上がっていました(笑)

**橋本:**お会いする前は、片寄さんって、もうちょっとクールなイメージというか、こんなにお話してくださる方だとは思わなかった。素の片寄さんは“関西人み”が強かったです(笑)

**片寄:**血はそっちなので(笑)

## 〈「0キス」ならではの胸キュンシーン〉

——AB型が関係あるのかなのか、数々の胸キュンシーンを演じた2人だが「あまりテレはなかった」と振り返る。そんな印象的なシーンの1つが、楓が日奈々の鼻にキス…ではなく、鼻をかじる場面。実は本番まで、鼻をかじることは橋本に内緒だったという。

**橋本:**台本には“鼻にキス”と書いてあって、リハーサルまで鼻にキスすることになっていたので…本番でかじられました(笑)

**片寄:**もともと原作では“鼻かじキス”なんですよな。

**橋本:**私も原作では“鼻かじキス”のシーンだと知っていましたが、台本には普通に鼻にキスをするを書いてあったので、実写ではやらないのかなと思っていたんです。それが本番でいきなり“鼻かじ”だったので…ん?かじった??って(笑)

**片寄:**さすがに橋本さんも驚いていましたね。でも、そのリアルな表情が、すごくいいんです。

**橋本:**お芝居としても日奈々が驚く場面だったので、驚いている演技と素の動揺が相まって、映像を見てすごくいいシーンになっているなと思いました。片寄さんも、いい感じに鼻をかじっていて、漫画のシーンさながらでしたよな。

**片寄:**漫画はすごくきれいに描かれているし、漫画だから描けるものもあるから、実写にするとどうなるかなと思っていたんですが、すごくすてきな印象的なシーンになっていたの、挑戦させていただいてありがたかったです。

**橋本:**人生で鼻をかじられたことなんてありませんからね。初“鼻かじり”です。そして今後もないと思います(笑)

**片寄:**僕も人の鼻をかじることは、この先ないと思います(笑)

## ——「0キス」ならではの、かつてない胸キュンシーンとなっている“鼻かじキス”。

**橋本:**あれはまさに本作でしか見られないシーンですよな。

**片寄:**予告編では“鼻かじキス”の瞬間しか映っていないけど、僕はここにいくまでの流れも見たいんです。

**橋本:**確かに! 本作には胸キュンシーンがちりばめられているんですけど、そこまでの流れやその後とか、胸キュンシーンと前後のストーリーがつながっているの、その描き方に注目してほしいです。あと私、けっこう出会いのシーンも好きです。綾瀬さんの“おしり星人”が発覚する、衝撃的な出会い(笑) ここは原作でもとても有名で、原作ファンの方も好きなシーンだと思います。実写でも、しっかり描かれているので楽しんでほしいです。

**片寄:**マスク越しのキスシーンも「0キス」ならではの、ですね。まさに、芸能人という設定だからそのシーン。芸能人が外でキスをするとか、相当なことですから。一歩間違えばこうやってマスコミに…(笑) でもそれをマスク越しでも、するわけですから。

**橋本:**あのシーンは少し遠くから撮っていて、向こうのほうに人が歩いていたりして、すごくリアリティーがありました。

**片寄:**映画を見る方にとってはドキドキする胸キュンシーンだと思いますけど、こっち側からするとドキドキどころかヒヤヒヤしてしかたがない(笑)



目まぐるしい日々を過ごす11月。だんだんと年末ムードが漂い、2020年が迫ってきている感じがします。最近では、ハロウィーンも終わり、徐々にクリスマスツリーが飾られるお店なんかも出てきていて、2019年も時間の流れの速さを感じています。

ところで時間の流れの速さの感じ方は、何かに比例するんですかね？ ぼーっと過ごした日と、忙しい日では感じ方は明らかに違うのに1日は24時間……。かなり不思議ですよ（笑）。

目や耳、肌で感じた情報量に比例するのか？ 脳の活用度に比例するのか…？ こんなにも便利な時代になったので、検索してみました（笑）。“感じられる時間の長さ”に影響を及ぼす要因には、時間経過に対する注意、身体的代謝、体験される出来事の数、感情の状態などを挙げることができます。”

とのことでした（笑）。なので、同じ1日でも短く感じた場合は、身体的代謝が低く、時間も気にせず、身体的にも感情的にも何も変化がない場合は、ものすごく時間は早く感じる事ができるみたいです。なので、ぼーっと過ごした日は、あっという間に1日が終わってしまうように感じます。

逆に、1日を長く楽しみたい場合は、身体的代謝を上げながら、時間を気にして、身体的にも感情的にも刺激が多い場合に、時間は長く感じることができる。

僕の中ではこれって逆じゃないのかな？って思っていますが、実は感じる時間はある程度コントロールできるみたいです。

子どもの頃は、毎日が刺激と発見だらけで、身体もすくすく動かして代謝が上がって、感情の起伏も激しいので、時間が長く感じるのに対して、

大人になるにつれて、刺激が減り、毎日がルーティン化した生活で、身体を動かさなくなったり、感情も落ち着くことから、時間がどんどん早く感じていく。

個人差はあるかと思いますが、なるほど！って納得させられますね（笑）。

しかし、生きてる以上楽しい事を1秒でも長く感じたいと思うのは当たり前だと思います。なので、子どもの頃に毎日が長く感じた要因を、どんどん取り入れながらチャレンジして行こうと思います。

そう考えると僕の生活を少しだけ大袈裟に言うと、毎日刺激が多く、踊って代謝をあげ、時間に追われ、楽しさも悔しさも感動も少しだけ多い生活なのかな？ と思います。

もう長い間この生活に慣れるという事は、常に時間を長く感じさせていていただいているんだ！ ということに、文章を書きながら気がきました（笑）。

それなのに、もう年末か……。時間が早く感じますねって冒頭で書いたのは、過ぎてしまえばあっという間って事なのかもしれませんね。

あらためて、その時、その時を大切に、少しでも自分のやっている事や周りできている体験を、大切に長く感じられるように生きて行きたいと思いました。

来年2020年に開催する『LDH PERFECT YEAR 2020』は、過ぎてしまえばあっという間かもしれませんが、長く楽しく幸せな時間をたくさん感じることができそうです！

その準備に先駆けて、1月1日に発売するEXILEとEXILE THE SECONDの新曲MVの撮影を先日行いました。久しぶりの撮影、久しぶりの本気ダンスにココロオドリました。ダンスが本気で踊れるってこんなにも自由なんだな。心と身体解放とでもいいますか、気分がいいですね！



これを来年は1年中感じていられるなんて、それだけで身体も頭も心も踊ります。

そんな来年のパーフェクトツアーのリハーサルも毎日楽しくやっています。ツアーや撮影など忙しくて来られないメンバーもいますが、みんなで共有しながら、「あーしよ、こーしよ」と言い合っていて、楽しくスタジオにこもっています。ちなみに僕は、リハーサル皆勤賞を狙って行きたいと思えます（笑）。決して暇人ってわけじゃ無いですからね。リハーサルが好きなんです。

年末になると、テレビでのパフォーマンスなども増えてくると思いますので、ぜひ楽しみにしてください。やはり、パフォーマンスを皆さん

に見ていただくことで、とても僕自身パワーになります。なので、ぜひ、チェックしていただけたいと思います。

最後に、時間の使い方に戻ってしまいますが、今自分が全力で考えている事、全力でやっている事、それが最高の時間の使い方だと信じて、そしてそれが少しでも誰かのためになると信じて、そんな今を一生懸命に生きていけたらと思います。

来年は全国の応援してくれるファンの皆さんをお迎えにいくような気持ちで準備をさせていただきますので、そろそろお出かけの支度を始めてください（^o^）v (TOKYO HEADLINE VOL.724より)

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。



photography : 古川 正人(+huit プラス ユニット)  
©2017 F.O.S.C.



01.今シーズン思い出に残っていることは？

—— はじめての移籍でどんな選手がいてどんなクラブハウスだろうと期待と不安で色々考えていたけど岡山のサポーターも選手も **温かく迎え入れて** くれたこと

02.周りからどんな人って言われる？

—— **変わっている!クセがある(笑)**

こだわりが強いところがあるからかな?試合前に結構長い時間、超音波を当てるんですけど今までそんな選手見たことない!って言われました。

03.よく聴くアーティストや曲は？

—— **清水翔太**さんをよく聴いています。  
**好きな歌は“DREAM”**

04.岡山にきて感じたことや印象に残っているエピソードは？

—— **サポーターが熱い!!**

アウェイでもたくさん応援に来てくれてホームのような雰囲気してくれます!

**後楽園の年パス持ってます!**

子供も芝生で遊べるし、お散歩コースですね。桜を見に行ったり紅葉だったり、岡山の四季を後楽園で感じています。

05.これは、自分のギャップだなど思う所は？

—— 娘がまだ1歳2ヶ月なんですけど、**鍛えてます(笑)**

たくさん歩かせるようにして活発に動くようにしてますね!将来何でもいいでスポーツはやってほしいな~と思っています。

06.仲の良いチームメイトは? 仲良しエピソードを教えてください!

—— 同期の**#5増田選手**と**#19仲間選手**かな~。

あとは最近移籍してきた**#39増谷選手**が仲良いです。  
マス(#39増谷選手)とはご飯を食べに行ったり、家族で後楽園にいら1人で散歩に来ててぼったり会ったり(笑)ジャージしか持っていないというマスの買い物に、岡山だからと児島のシーズストリートへ一緒に行ってました。

07.クリスマスで楽しみにしていることは？

—— まだ、何をするか決まっていらないんですけど。  
う~ん。じゃあ、**クリスマス料理作ります!(笑)**  
(作ったらInstagramに載せます!)←お楽しみに。

08.チーム内で流行っていることは？

—— 練習終わりの休憩室で**テラスハウス**や**バacheler**配信日にみんなで集まって観たりしています。

09.チームメイトと1日変われるなら誰になって何をしたい？

—— **#14上田康太選手**になって**“フリーキック”**

10.女性の好きな仕事や服装は？

—— 仕事ではないんだけど健康志向だったり**筋トレ女子**かな~。  
服装は、キレイ系ファッションが好き。

11.来年はどんな年にしたいなど目標を教えてください!

—— **今年の経験を活かしてより飛躍した一年にしたいです!!**



vol.11  
**Yuma Hiroki**

選手のここで見える事の出来ない素顔を知って地元リーグチームを応援しよう! **廣木雄磨** 1992年7月23日 168cm/68kg 東京都出身

今シーズンよりファジアーノ岡山にはじめての移籍でやってきた廣木選手。雲ひとつない秋空にびったりの爽やかな笑顔を見せてくれました!! インタビューも終始楽しくひとつひとつの質問に真剣かつ面白く答えてくれました。動画インタビューには、全部答えるぞ! と気合十分で挑んでいただきました! **5秒以内に答えられたのか...**。その結果をぜひMOVE UP TVよりご覧下さい!

## 7 留学を迷っている人に アドバイスを!

絶対にできないことはない!

“絶対にできないことはない”と思う! 私も自分でバイトをしてお金を貯めてアメリカに行けたし、できない理由を見つけるより、大変だけどもあえず観光で行ってみようとか、方法はたくさんあると思うので勇気を出して挑戦してほしいなと思いますね。あとは、私もそうだったんですけど分からないことを色んな人に聞きがちになってしまうけど、やっぱり自分で調べるのがすごく大切だなと思います。

## 8 今後の夢は?

世界ツアーを回ること

世界ツアーをすることがずっと夢で、まずはアメリカで国内ツアーをやりたいです。今までは、ビザの関係で現実的に難しいところもあったんですけど、これからアメリカに戻って少しずつ日本人が活動するプラットフォームを耕しながら、私みたいにアメリカで活動したい人が一緒に活動できる場所も提供できるような存在になりたいですし、夢は大きく“グラミー賞”も目指して頑張りたいです!

## 9 活動を通して 一番伝えたいことは?

10年後、20年後の自分を想像しながら、  
自分のために毎日過ごしてほしい

一番伝えたいことは、人生って本当に短くて、きっと悩んだり悲しくなったり悔しいことの方が多いと思うんですけど、落ち込んでいる時間をもったいないと思うので、次の日は良いことを切り取って、切り替えることが大切だと思っているんです。私は普段すごく怠け者で、日本にしていると安心してつい誰かに甘えたくなったり後回しにしてしまうことがあるんですけど、やっぱり海外に行くって“しっかりしなきゃ”って思えるから私が生活するのは海外がすごく合っていると思うんですよ。だから自分に合ったやり方が、どんな仕事をしていても、いくつになってもあると思うのでそれを見つけて10年後、20年後の自分を想像しながら自分のために毎日過ごしてほしいなと思います。言霊ってよく言うけど、本当にそうだなと思っていて、10年前に今の自分が想像できたかと言われたら多分できていない人って少なく、2年後、3年後の自分がどうしているかって何も決まっていなかったから、自分がどうなりたいかをちゃんと言葉にすることは大事だなと思います。あとは、夢を言葉にして人に伝えること。私も会う人会う人に夢を伝えるようにしていて、そうすると絶対にどこかでその言葉って現実として自分に返ってくると思うんです。だから頑張っていれば見てくれている人はいると思うし、サボっているのも見られているから、毎日100%頑張るのは大変だけど、何かをひとつはずしにやっていたら絶対大丈夫! ってレディー・ガガが言っていました(笑)



web

[annaishii.com](http://annaishii.com)

youtube

[annaishii94](https://www.youtube.com/annaishii94)

instagram

[@annaishii94](https://www.instagram.com/annaishii94)

Singer / Song Writer  
**ANNA ISHII**

1994年生まれ広島と岡山で育った25歳。15歳でデビュー、2011年から四年間に渡り元広島東洋カープの前田健太投手が楽曲を場曲に使用した。2016年よりアメリカ・ロサンゼルスへ単身渡米。現在、LAを拠点に日本に留まらない海外での活動の場を広げている。日本では岡山初のプロバスケットチーム、トライフーズ岡山へ公式応援歌“Go Your Way”を楽曲提供。今年10月には開幕戦で国家斉唱と共に披露した。現在、岡山マツダのCMにも起用されている。

## 4 どんな歌を発信していきたい?

日本の方にも海外の方にも伝わる、  
新しい音楽を届けていきたい

私のルーツは、HIPHOPも好きだしR&Bも好きなので、これじゃないとやりたくない!みたいなのはあまりなくて、新しいものを届けていきたいという気持ちが強いですね。日本の方にも届いて、海外の方にも興味を持ってもらえる歌を発信していきたいというのが一番の想いです。全部日本語だと、海外の方は何を言っているかわからないから聴いてもらえない可能性もあって、聴かず嫌いされるのもダメなので、ちゃんと日本の方にも海外の方にも届く間の音楽を探しているところです。



## 6 笑顔が素敵なANNAさん。その秘訣は?

ネットの世界じゃなくて、  
目の前の世界を大切にすること

今の時代、私も含めですがネットに依存しがちになっていると思うんですけど、せっかく目の前の世界があるのに携帯の中の世界にずっと入ってしまうのはもったいないから、携帯を気にしない時間を作るようにしています。海外にいても、携帯に頼らずに直接現地の方に道を聞いたりすることで新しい出会いも生まれますし、見えなかった世界が見えるのでそういったことは大切にしています。

## 5 Youtubeチャンネルで 発信していきたいことは?

日本に届いていない企画などを発信して  
海外に興味を持ってもらいたい

英語の歌を日本語に和訳して歌った動画などもUPしているのですが、自分で100%訳して歌っているものもありますし、調べながらその歌に合った歌詞をつけることもあります。英語の歌って日本語に直訳できないので、そこは自分の感覚で訳すようにしていますし、日本の歌詞ってすごくコンパクトに、聴いている人の想像を掻き立てるような歌詞が多いので、なるべくそれに近づけるように歌詞をつけています。最近だと、アメリカでリリースされたばかりの新曲を日本語で知りたいという方も結構いるので、そういう曲もなるべく早くUPするようにしています。あとは、私のYoutubeチャンネルで、日本にまだ届いていない海外の企画も面白いことがあるのでそういった企画に挑戦したり、新しいものを日本に届けてみんなを巻き込んで海外に興味を持ってもらえるようにしていけたらいいなと思っています。

JAPAN MOVE UP WEST

編集部注目の!

# ANNA ISHIIを知る 9つのこと。

JAPAN MOVE UP WEST編集部が気になるアーティスト『ANNA ISHII』。2019年、バスケットボールチーム『トライフープ岡山』の公式応援ソングに自身の楽曲が起用され、ますます注目の彼女。岡山と広島で育ち、15歳の若さでデビューし、現在はアメリカ・ロサンゼルス(以下:LA)に拠点を移し、活動を行なっているANNA ISHIIさん。日本とアメリカを行き来しながら、活動し続ける彼女の笑顔の裏側についてインタビュー。

## 1 歌をはじめたきっかけは?

9歳の時に近所の  
ショッピングモールで受けたオーディション

小さい頃は、両親が家で流していた音楽を口ずさんで歌うのが好きな程度でした。当時広島に住んでいたのですが、近所のショッピングモールで開催されたアクターズスクールのオーディションのチラシがポストに入っていて、それを見た母に「受けてみたら?」と勧められ、私自身も特に深く考えることもなくオーディションを受けに行きました。100人ぐらい参加者がいた中で2位に選んでいただいたのがきっかけで、スクールに通うようになりました。小さい頃から歌うことは好きだったのですが、本格的に歌を始めたのは9歳の時です。

## 2 当時からプロになりたかった?

全く思っていなかった(笑)

全くなかったです(笑) スクールに通うようになったのが小学4年生だったので、週末にスクールに行ってダンスと歌の練習をしてという感じで、週末学校のような感覚でした。中学生に上がった時に、アメリカのオーディション番組『アメリカズ・ゴット・タレント』という番組を見て、その時に受賞した子が同年だったんです。同い年でこんなに歌が上手い人がいるんだということに感動して、衝撃を受けて私もあんな風になりたいなと思って歌を仕事にしたいと思うようになりました。

ANNA ISHII

SPECIAL FRONT INTERVIEW

# ANNA ISHII

Singer / Song Writer

JMUW × FAGIANO SPECIAL INTERVIEW

廣木雄磨 Yuma Hiroki

FAGIANO OKAYAMA DF 2

JAPAN MOVE UP WEST

54